

「大文字屋」西川利右衛門家



座敷



奥の寝間



庭



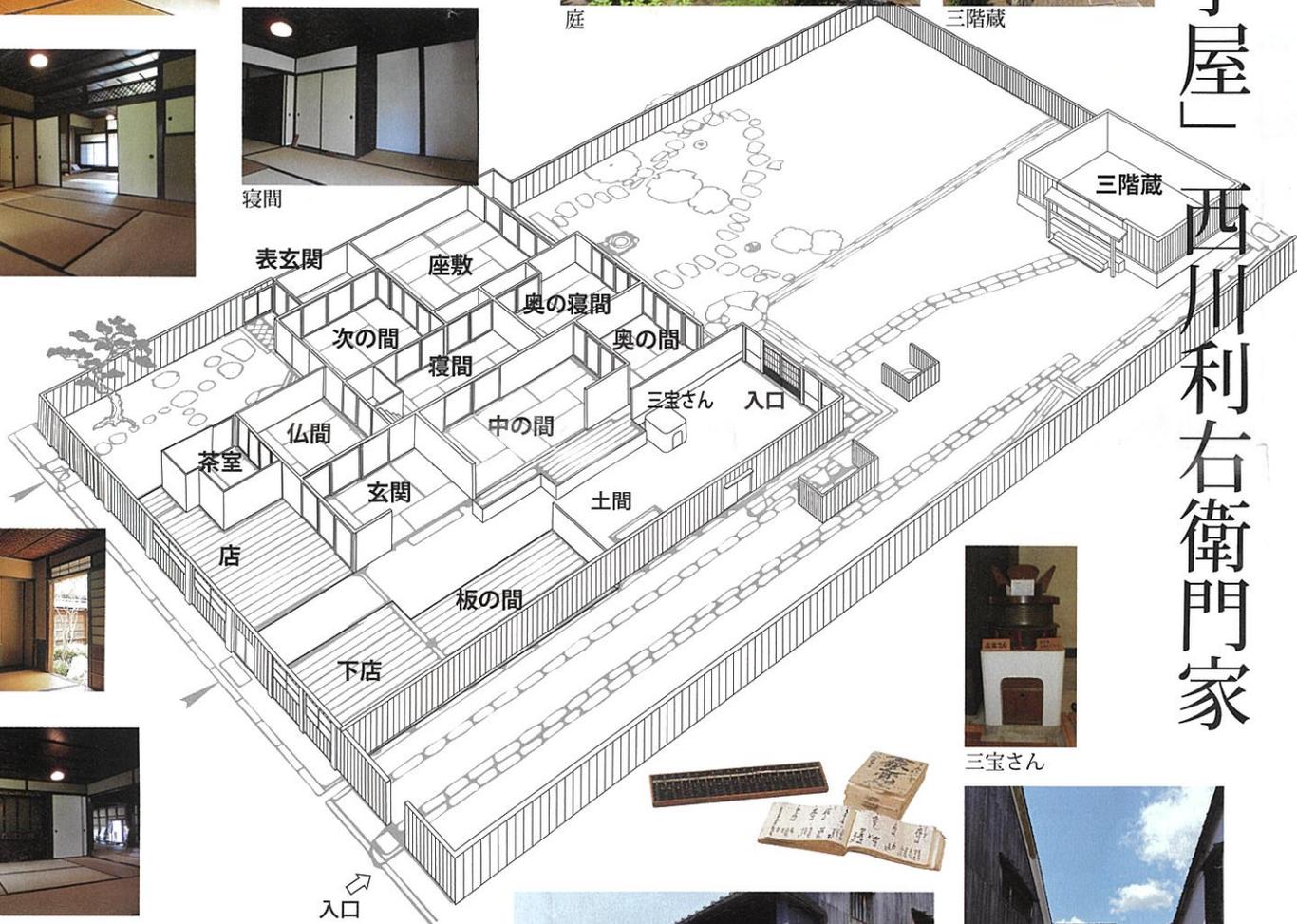
三階蔵



次の間



寝間



茶室



仏間



店



中の間



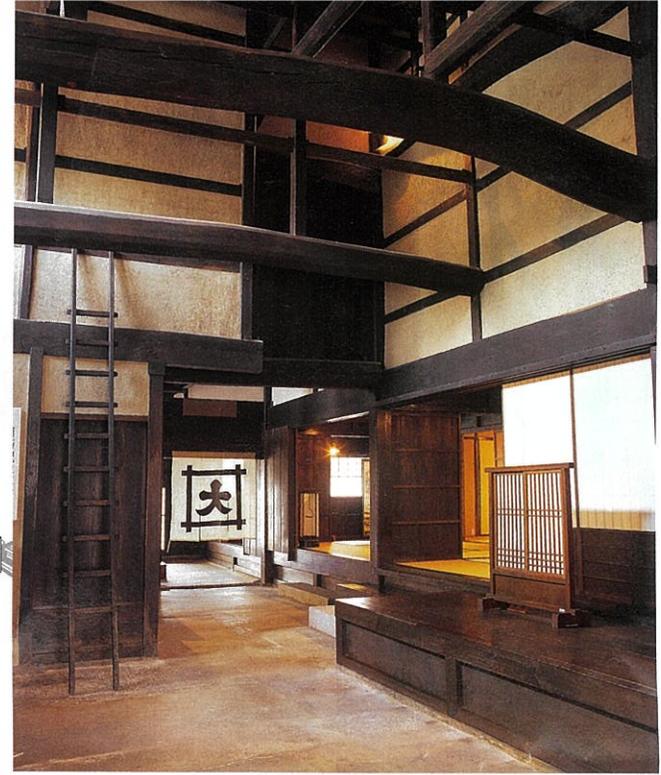
新町通り外観



三宝さん



入口通路



西川利右衛門は屋号を大文字屋と称し、江戸・京都・大阪に店舗を構え、蚊帳・畳表などの商いで財を成しました。

現在資料館として入館できる施設は3代目によって宝永3年（1706年）に建てられたもので、昭和58年1月に国の重要文化財に指定され、昭和60年10月より33ヶ月の工期を経て、改修されました。主屋は切妻造、瓦葺、一部2階建。南北に通る新町通りの西側に建つ。建物の手前（北側）は「店土間」「玄関土間」「台所土間」と続く通り土間とし、店土間の南と北の新町通りに面する側に板の間の「店」を設けています。「玄関土間」「台所土間」の南側には2列に居室を設け、さらに南側には庭園に面した座敷部を突出させています。全体に質素な意匠ですが、建築材料には良材を選んでいます。庭に建つ土蔵は、近世のものとしては珍しい3階建てであります。

昭和5年に後継者が無いまま11代目が亡くなり、約300年にわたって活躍した西川家は終焉を迎えました。

西川家の家訓は「先義後利榮・好富施其得」。義理人情を第一とし、利益追求を後回しにすることが商売繁盛となり、得られた富に見合った人間形成を行えと説いています。



寿楽園 (じゅらくえん)

本宅の敷地の西側にある背割りの溝を越えたところには、大きな庭があります。(非公開)

寿楽園と呼ばれ本宅の敷地に匹敵する規模をもっています。

背割りの溝の上には半間幅の屋根がかかり北半分は渡り廊下となっています。園内には離れ、茶室、東屋が残っています。

近江八幡市立資料館

旧西川家住宅

重要文化財

江戸時代の町並みの面影を残す新町通りの歴史民俗資料館の隣りに一軒民家をはさんで旧西川家住宅があります。典型的な近江商家の面影を残すこの家は、店の部分と居宅部分に分かれており、突き出した座敷玄関を持っているのが特徴です。

壁を黒く塗り、トガ材を使った京風建築の2階建家屋は、どっしりとした構えで、江戸時代中期頃の建築と推定されています。見かけより奥行きが広く、庭に植えられた木々の周りに飛び石が巡らされ、地面には苔が生えています。近江商人の隆盛ぶりを偲ぶことができ、国の重要文化財に指定されています。

近江八幡市立資料館

(郷土資料館 歴史民俗資料館 旧西川家住宅)

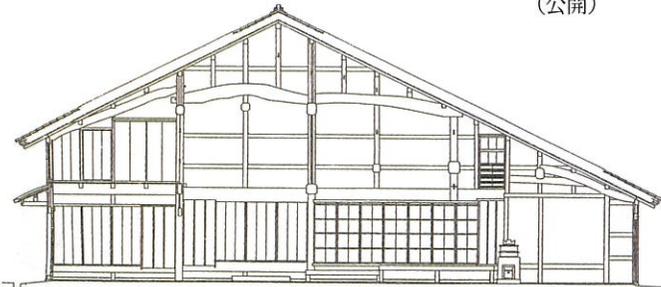
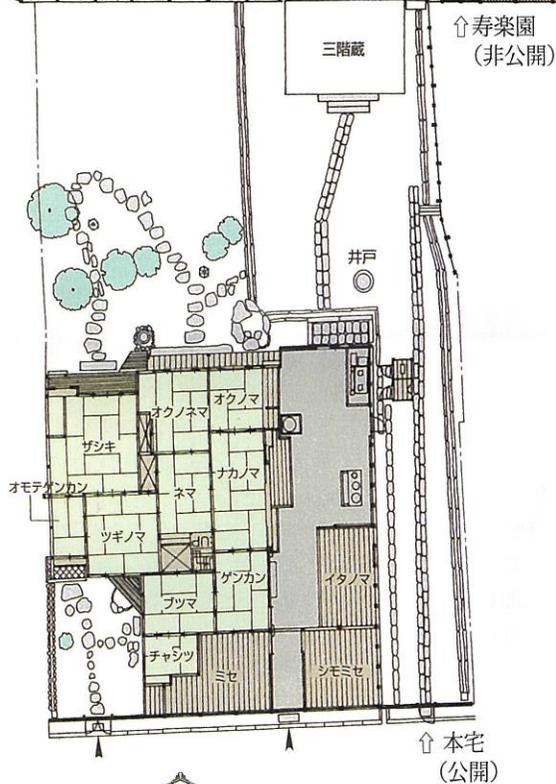
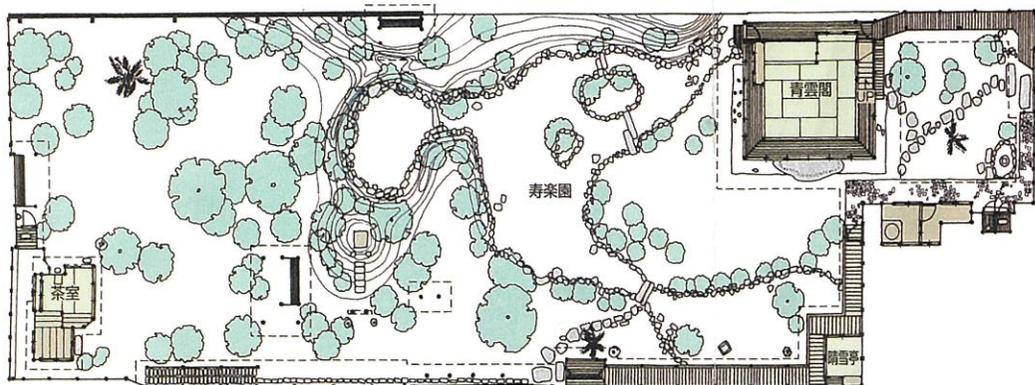
滋賀県近江八幡市新町2丁目22
TEL (0748) 32-7048 FAX (0748) 32-7051

【開館時間】 9:00~16:30 (入館は16:00まで)
【入館料】 一般 ¥500 小・中学生 ¥250
(3館共通) 団体(10人以上) … 一般 ¥400
小・中学生・障害者 ¥200

【休館日】 月曜日・祝日の翌日・年末年始
※月曜日が祝日の場合開館、4,5月と10,11月は無休

【旧西川家住宅入館料】 一般 ¥300 小・中学生 ¥150

【指定管理者】 株式会社 パソナ ジョイナス



旧西川家断面図：巨大な屋根がかかり、通り庭の上部は表側の二間にツシ二階が有るものの奥よりは屋根裏まで吹き抜けている。